

2015.10/ No.146

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

濃いっ! 阪大

大坂・学びの系譜編

懐徳堂から「大坂」を知る

Topics

秋の卒業式 /
大学院学位記授与式 /
入学式を開催



Contents

Topics

- 04 平成 27 年度
秋季卒業式・大学院学位記授与式
平成 27 年度
秋季入学式

濃いっ! 阪大

- 10 大坂・学びの系譜編
懐徳堂から「大坂」を知る

- 18 役員室だより
29 人事／訃報
30 教職員インタビュー
32 ほっとニュース
34 Information



【表紙写真】
重建懐徳堂復元模型と中之島のコラージュ

表紙写真撮影：クリエイティブユニット

銀杏の葉が日ごとに
黄色味を増しています。
4月に阪大人となった
新入生や教職員の皆さんは
「そろそろ自分の色を出していこうか!」
というところでしょうか？
10月に新たな仲間を迎え
キャンパスはますます色づいていきます

「いちよう」（吹田キャンパス）

OWL { カテゴリ：阪大の自然
キーワード：銀杏／秋／吹田キャンパス

OWL (Osaka University Web Library) とは…

大阪大学の学内構成員（学生・教職員）が、大阪大学のさまざまな素材を自由にダウンロードし、利用するためのウェブサイトです。最適化された高画質な画像、各種資料やプレゼンに利用できるテンプレートを利用規約を満たす限り自由に利用できます。「阪大百景」は、クリエイティブユニットがクリエイティブ・コモンズライセンスで提供する画像ライブラリで、カテゴリおよびキーワードから写真を選択できます。OWLには「マイハンダイ」からログインのうえご利用ください。<https://my.osaka-u.ac.jp>

平成27年度秋季卒業式・大学院学位記授与式

9月25日（金）、大阪大学コンベンションセンターで秋の卒業式・大学院学位記授与式が行われ、学士34名、修士29名、博士・法務博士175名、あわせて238名（外国人留学生97名）に学位が授与されました。

西尾章治郎総長から、73歳で博士学位を取得された姉崎正治さんの快挙を讃えるとともに、「教養、デザイン力、国際性、コミュニケーション能力を兼ね備えたみなさんが世界で活躍されることを期待しています」と饒の言葉が贈られました。



平成27年度秋季入学式

10月1日（木）、大阪大学コンベンションセンターで秋季入学式が行われ、大学院141名、学部34名あわせて175名（女子68名）が大阪大学の門をくぐりました。秋入学は外国人留学生が多く（125名）、国際化に対応するため、式はすべて英語で行いました。西尾章治郎総長から、「何事にも「本気」で取り組んでほしいと願っています。もちろん、大阪大学も皆さんを本気でサポートします」と歓迎の言葉が贈られました。



平成 27 年度
大阪大学秋季卒業式・大学院学位記授与式
総長式辞

本日、大阪大学から新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、大阪大学を代表いたしまして心よりお祝いを申し上げます。卒業式・学位記授与式にあたり、この日を迎えるまでの皆さんの日々の研鑽とたゆまぬ努力を讃えます。また、この日まで長きにわたり皆さんの勉学と研究を支えてこられましたご両親、ご家族の方々には、深甚なる敬意を表するとともに心よりお喜び申し上げます。

この大阪大学は、私が 30 年近くにわたって教育・研究に邁進してきました愛すべきホームグラウンドです。私は、その大阪大学の第 18 代総長に先般 8 月 26 日に就任いたしました。したがって、本日の式典は私が総長として執り行う最初の大きな行事の一つであり、このように皆さんに語りかける機会をもてることを大変嬉しく、光栄に思っております。

さて、本日の学位記が授与される方の中に、どうしても皆さんに紹介をしたい方がおられます。博士（人間科学）

の学位を授与される姉崎正治さんです。御年 73 歳であり、30 年前に東京大学で論文博士として取得された工学博士に続いて、本日二つ目の博士号を取得されることになります。姉崎さんは、中学を卒業後、集団就職により住友金属工業株式会社和歌山製鉄所に入社され、企業研究者として独学研究を 27 年間続けられた末に、東京大学工学研究科において博士号取得の夢を叶えられました。その審査会では「満場一致、文句なしの合格」だったと伺っております。それから、姉崎さんは、同企業を定年退職後、大阪外国語大学外国語学部に社会人入学され、スペイン語・歴史学を学びつつ、本学人間科学研究科のグローバル人間学の博士課程に進学され、環境問題に関する文理融合研究に挑戦されてこられました。特に、持続可能な地球社会を目指すサステナビリティ学の視座から貴金属鉱山業の持続可能性を描き出す問題解決への試みをなされました。

私は、この快挙の報に接しました時、飽くなき向学心、探求心に深い尊敬の念を抱きました。また、大阪大学が、現在、さまざまな高度人材プログラムで目指しております、異なる分野、特に自然科学分野と人文学・社会科学分野をクロスした高度な博士人材の輩出の典型あるいは模範を姉崎さんは実現してくださいました。姉崎さん、本日は誠に

おめでとうございます。

さて、私は、先般、6 月 12 日に総長予定者として決定されて以降、多くの報道関係の方々からインタビューを受けてきました。その際に、何時も受けた質問があります。それは、「大阪大学では、今後、どのような学生を育てたいですか。」という質問です。

私は、その質問に対して、『グローバルとローカルを組み合わせた「グローバル」という言葉があります。一時かなり流行した言葉ですが、身をもってこれを実行することは容易ではありません。だからこそ、この言葉を体現するような学生を育てたいのです。』と答えています。例えば、今日は国内の山間部に溶け込み住民とコミュニケーションを取り、住民に信頼されて調査・研究をしているかと思えば、明日はニューヨークでの国際会議の檯舞台で発表するといった、地域に根差した視点を持ちつつ世界も視野に入れるような学生、つまり、大阪大学のモットーである「地域に生き 世界に伸びる」を地で行くような学生のことです。単にグローバルだけというのは、上滑りの感じがしています。このような理想とする人材像にとって、「コミュニケーション力」及び「国際性」がいかに重要かは容易にご理解いただけたと思います。

これから企業や行政、あるいは民間の研究所やシンクタンクに活動の場を移される方もおられれば、さらに大学で研究を続けられる方もおられるでしょう。そして、その活動の期間は、大阪大学で勉学に励まれた期間よりずっと長くなります。そこでは、先にお話した「コミュニケーション力」、「国際性」に加えて、どのような能力が求められるのでしょうか。それは、「デザイン力」と「教養」だと思います。

デザイン力とは、ある課題に直面した時に、与えられた環境、与えられた拘束条件のもとで最適の解に導く問題解決能力、これを「デザイン力」と言ってよいと思います。例えば、建築物の場合は、与えられた敷地面積や予算、さらにさまざまな法的規制等を考慮した上で、建築主の意向に沿って最適な建物を設計していく力、しかもこの作業を遂行するに当たって、本当に必要な人々のネットワークを構築する力、それが「デザイン力」です。

一方、「教養」については、大阪大学第 16 代総長鷲田清一先生は、次のように言っておられます。『教養とは、一つの問題に対して必要ないくつもの思考の補助線を立てることができるということです。言い換えると、問題を複眼で見ること、いくつかの異なる視点から問題を照射することができるということです。このことによって、ひとの知性はより客観的なものになります。』

つまり、デザイン力、教養を身につけることにより、多角的な観点から問題を捉え、与えられた状況のもとで多角的・客観的な指標に基づき最適な解を導くことができます。現

代では、このような能力を身につけた人材こそを、産業界、行政機関、そして教育研究機関が異口同音に強く求めています。

実は、これまでお話ししました「教養・デザイン力・国際性」は、大阪大学が平成 16 年度からの国立大学法人化を迎えるに当たり定めた教育目標です。さらに、コミュニケーション力についても、大阪大学が全国の大学に先駆けその重要性を提示し、本学の学部学生・大学院生がその力を涵養することを目的としたセンターを設置しました。したがって、本学は四つの力、能力を備える教育にいち早く注目し、独自性を長年発揮してきたと言っても過言ではありません。

そのような本学の教育方針のもとで過ごされ、本日、学部を卒業される皆さん、大学院修士・博士課程を修了される皆さんは、「教養・デザイン力・国際性・コミュニケーション力」を備えておられることを確信しております。今後、それぞれに本学で培ったこれら四つの力及び能力、さらに知恵と知識と技能を存分に発揮されることを心より願っております。そして、皆さんが、どのような分野に進もうとも世界中の国・地域で、その分野において周りの人々から信頼され、リーダーシップを発揮して、自国の将来はもちろんのこと、人類社会の発展と福祉の向上に大いに貢献してくださることを期待しております。

最後になりましたが、ここまでの道のりの中、家族、友人そして研究仲間、加えて皆さんを陰で支えてきた大勢の方がいます。改めてその方々への感謝の念を思い起こしてください。そして、皆さん一人ひとりのこれからの生涯が、健康と幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。皆さん、改めておめでとうございます。

平成 27 年 9 月 25 日

大阪大学総長

西尾 章治郎



2015 Autumn Entrance Ceremony
President's Address

Good morning.

It is my utmost pleasure to congratulate all of you as the newest members of the undergraduate and graduate programs at Osaka University. As the president of the University, it is my distinct honor to extend a warm welcome to you as well as your friends and family who could join this celebration today.

Osaka University is my cherished home ground, an institution where I have spent close to 30 years of my life, dedicating myself in advancing education and research on its campuses. On August 26 of this year, I became the 18th president of the University. As such, this Entrance Ceremony is one of my first official duties as president, so I share with you a fresh sense of new beginnings.

I see the rich talent and ability in each and every one of you. It is the “true value” of yours, or the intrinsic worth which is distinctively yours, and the one that only you can develop and nurture. It is for this reason that I affirmed my strong commitment to creating the best available educational environment which would enable you to fully manifest your intrinsic potentials.

The fresh and novel knowledge that you carry is an important facet of your “true value”. Our faculty members are true scholars and experts who are equipped with deep knowledge in the humanities, social sciences and natural sciences. We are also fortunate to be aided by strong teams of administrative staff, whose know-how supports our students and faculty.

I consider that it is my important mission to lead this orchestra of our diverse knowledge, like a conductor, and



collaborate with you all even to compose brand new knowledge. If we jointly share our pioneering minds and collaborate, I am confident that we can maximize our true value to its fullest extent. I firmly believe that, by sharing our diverse expertise and collaborating in breaking new ground of academia, we will nurture wisdom; wisdom which will guide us to the core essence of our academic work through education and research. In turn, it will further advance Osaka University's high international standing as a world-acclaimed comprehensive university.

To that end, I encourage each of you to strive hard to reach the heart of your scholarly inquiry and deepen your understanding throughout your pursuit of knowledge. As a member of Osaka University, an institution rich in tradition, I expect you to be mindful of your responsibility to make the best use of your abilities for the benefit of humankind and our global society.

Incidentally, the modern but traditional principles of Osaka University can be traced to two schools that have served as our spiritual predecessors; places of learning in Osaka in the mid-to late-Edo period of Japan from whom we have inherited our values. The first was *Kaitokudo*, founded in Osaka in 1724 by five successful merchants. The second was *Tekijuku*, a private academy of Dutch studies founded also in Osaka in 1838 by Ogata Koan, the renowned physician and scholar.

These two places of learning commonly shared the two important principles which we treasure today. First, their students were expected to refine their ethical high ground, richness in sensibility, and rich knowledge of liberal arts while earnestly pursuing rational and scientific knowledge. Second, they cultivated their public minds and willingly dedicated their expertise for the



betterment of the society they live in while pursuing independent scholastic work in a free academic environment. Established in the vibrant merchant city of Osaka, modern Osaka University proudly carries on the traditions of its predecessors, institutions that produced the leaders who laid the foundations for modern Japan. I trust that you, those who will become our newest students at Osaka University, will carry on our unique academic tradition and philosophy.

So far I have talked mainly about rather formal matters. But before I conclude, I would like to remind you that you are going to spend your lives here at Osaka University as students. Student days are often the most magnificent period of your life. As students, you are afforded this unique privilege to devote ample time and energy to something you are enthusiastic about wholeheartedly, even though others may not understand its significance. Of course, I expect you to study hard, but I also would like you to completely explore possibilities which may be unrelated to your chosen field of study.

Indeed, as I look back on my own time as a student, it is a treasured time when I met teachers, friends and partners who would influence me for the rest of my life. At Osaka University, I ask that you expand your

experience beyond the classroom and the laboratory. Do overcome borders of academic discipline, generation, and nationality, and come to know as many people as possible, communicating to spread friendship.

In closing, I would like to express my belief in the importance of earnestness, or *Hon-Ki* in Japanese, at all levels of endeavor.

If you act earnestly, almost anything is possible.
If you act earnestly, everything is interesting.
If you act earnestly, someone will lend a hand.

My hope is that you will take these words to heart when you challenge things. Osaka University will be side by side with you and earnestly support you.

Today I am truly happy to welcome you into the Osaka University family. Again I wish to express to you all my heartfelt welcome.

Omedeto-gozaimasu. And thank you.

October 1, 2015
President of Osaka University
Shojiro NISHIO





重建懷徳堂復元模型

大坂、懷徳堂メモリー

江戸時代の中期、八代将軍吉宗の頃。

大坂にはすでに身分の区別のない大坂町人による町人のための学校「懷徳堂」がありました。

江戸とはどこか異なる大坂文化。

どうして江戸ではなく大坂に生まれたのか、大阪大学の精神的な源流「懷徳堂」を知ると、

大阪が誇らしく思えるかもしれません。

懷徳堂

から「大坂」を知る

湯浅邦弘（文学研究科教授）

市民による市民のための学校 「懷徳堂」

平成27年（2015）秋、サッカーJ1ガンバ大阪の新スタジアムが完成しました。阪大吹田キャンパスからもほど近い場所。驚くのは、この建設資金の大半が、寄付によっていることです。もちろん一部助成金も含まれますが、法人と個人の寄付は、実に100億円を超えたといえます。3,000億円を上回る建設費が問題となり、白紙撤回された新国立競技場案に比べると、安価な建設費とコンパクトな設計で国際基準を満たす素晴らしいスタジアムができたようです。

このように、国の力を頼ることなく、本当に意味あるものは、自分たちで作ってしまおうというのが、大阪人の気質です。そして、こうした市民の気概は、江戸時代にまでさかのぼるのです。

享保9年（1724）、今の地下鉄淀屋橋付近、今橋の地に、懷徳堂という学問所ができました。大坂の有力町人が出資し、また学舎を提供して設立されたものです。

当時は、徳川八代将軍吉宗の頃。まだ学校と言えば、江戸の昌平坂学問所や有力藩の藩校があるくらいでした。それらは武士の学校で、市民の学びの場ではなかったのです。そうした時に大坂では、市民が市民のための学校を作っていました。しかも、そこで講じられたのは、決してビジネスの話ではありません。商業活動の基盤となる倫理道德を、中国の古典、たとえ

ば『論語』や『孟子』などによって学ぼうとしたのです。学校名の「懷徳」も、「君子は徳を懷う」という『論語』の言葉にちなむとされています。

杓子定規じゃない道德論 身分の区別がない先進性

懷徳堂に招かれた学者たちも、ユニークでした。初代学主（学長）の三宅石庵という漢学者は、中国の古典を講義しながら、「義」と「利」の関係を説きました。正義に基づく行為には、必ずあとから利益がついてくる、と。それまで、義と利とは相反するものだと考えられていました。正義を追求すればお金儲けには縁がなく、逆に、利益の追求に走れば正義を逸脱してしまう、と。ところが、懷徳堂の先生たちは、そうした杓子定規なことを言わず、柔軟な道德論を説いたのです。これは、大坂の町人たちを大いに励ましたことでしょう。

その学則も先端的なものでした。士農工商という厳格な身分制度がある中で、懷徳堂では、武士も町人も、学生としては「同輩」だと規定しました。画期的なことです。席次も緩やかで、受講生たちがお互いに譲り合って決めていたようです。さらに、学費も安価で、商用による早退も認められていました。だからと言って、ルーズな学校だったわけではありません。懷徳堂からは、その学識で江戸の儒者を驚かす中井竹山（第四代学主）やその弟の履軒、さらには山片蟠桃、草間直方といった近代的英知を輩出しています。



中井竹山（なかいちくざん）*
（1730～1804）

懷徳堂百四十年の歴史の中で、最も大きな仕事をしたのは中井竹山である。竹山は、懷徳堂第二代学主中井整庵の子として享保十五年に生まれた。弟の履軒とともに五井蘭洲に師事して朱子学を学び、後に、第四代学主に就任して懷徳堂の黄金期を築いた。『非徴』『逸史』などを記す一方、天明八年（1788）、松平定信の来坂に際してその諮問に答えるなど、対外的にも大きな足跡を残した。



中井履軒（なかいりけん）*
（1732～1817）

懷徳堂で最も多くの研究業績を残した。履軒は中井整庵の第二子。竹山の二歳下の弟。懷徳堂内で生まれ、兄竹山とともに五井蘭洲に朱子学を学んだ。兄の竹山が懷徳堂学主として活躍したのに対し、履軒は後に懷徳堂を離れて私塾水哉館（すいさいかん）を開き、そこで

膨大な経学研究（中国の儒教經典についての高度な研究）を残した。その研究は、脱神話、脱権威の批判的実証的精神に貫かれており、富永仲基・山片蟠桃らとともに近代的英知の先駆けであると評価される。自然科学にも優れた業績をあげ、人体解剖図説『越俎弄筆』や天体模型「天図」「方図」などを残した。



『非徴（ひちょう）』**

中井竹山の主著で、荻生徂徠の『論語徴』を批判した『論語』注釈書。「非徴」とは、徂徠の『論語徴』を「非」難するという意味である。その基本的姿勢は、荻生徂徠批判で一貫しており、例えば、「総非」という総論では、徂徠の学問の弊害が「名」をあげることにつとめるという尊大な態度にあると指摘している。



『越俎弄筆（えっそうろうひつ）』**

中井履軒の医学書。履軒は、天文学者・医学者の麻田剛立が獣体解剖を行い、人体との対象確認を行ったのに立ち会ったという。本書の成立は、安永二年（1773）三月。それは、前野良沢・杉田玄白らによる『解体新書』完成の前年のことであった。



天図（木製）*

中井履軒が作成した木製回転式の世界模型。太陽が図の中心にあるので、一見、地動説に基づいて作成されているかのようであるが、実際に中央の赤い円盤を回転させると、回転盤の支点が地球にあるため、すべての天体が地球を中心として回転することがわかる。現在の地動説・天動説という枠組みから言えば、この天体模型は、二つの説を折衷したような形になっている。



『七経逢原（しちけいほうげん）』**

中井履軒の約三十年にわたる経書（中国の儒教經典）研究を集大成した書。「七経」とは、中国の代表的な儒教經典である『周易』『書経』『詩経』など七つの経書を指す。「逢原」とは、『孟子』離婁篇下の「其の原（みなもと）に逢う」にちなみ、真の原義にたどり着くという意味である。

本特集で使用している資料の提供元

* 懷徳堂研究センター／** 総合図書館／***（財）懷徳堂記念会



WEB 懷徳堂

懷徳堂の総合研究サイト (http://kaitokudo.jp/)。ここでは、懷徳堂資料の全容を検索できる「懷徳堂文庫電子図書目録」や貴重資料の画像・解説を掲載した「貴重資料データベース」がある。

現代も大阪に息づく懷徳堂

このように、懷徳堂は自由闊達な教育機関であり、また高度な研究組織でもあったのです。明治2年に一旦閉校となった懷徳堂は、明治時代後半の復興運動を経て、大正5年に再建されます（これを重建懷徳堂といいます）。これもまた、大阪の市民大学として親しまれました。昭和20年の大阪大空襲で講堂が焼失したのち、残された3万6千点の貴重資料が昭和24年に一括して大阪大学に寄贈されます（これを懷徳堂文庫と呼びます）。二度の歴史の断絶を経て、懷徳堂と大阪大学とが運命的な出会いをはたしたのです。ここに、懷徳堂は、適塾とともに、阪大の精神的源流と位置づけられました。

その後、大阪大学は、この懷徳堂の歴史を継承していくことになります。

一つは、一般財団法人懷徳堂記念会との共催による公開講座です。阪大に懷徳堂文庫が寄贈がされたのを記念して、毎年春と秋に開催される連続講座「春秋講座」は、すでに130回を超えています。江戸時代の懷徳堂や重建懷徳堂の雰囲気や今に残す「古典講座」も、中国や日本の古典を中心に、市民の学びの場、生涯学習の場として好評を博しています。

もう一つは、懷徳堂文庫の修復作業です。なにせ今から200年以上前の貴重資料を多数含んでいるのです。資料の劣化は防ぎようがありません。

そこで、最重要の資料から優先順位を付けて、平成17年頃から順次、資料の修復に取り組んでいます。その結果、たとえば、これまでその図柄がはっきりとしなかった屏風絵がよみがえり、その画題が解明されたという大発見もありました。資料は保存するだけではなく、時代とともに適切な修復も必要なのです。

そして第三は、デジタルアーカイブ事業です。懷徳堂文庫を図書館に保管しておくだけでは、その魅力が多くの人に伝わりません。そこで、文学研究科では、平成21年に懷徳堂研究センターを設置し、資料のデジタルアーカイブを進めることとしました。その成果は、順次、懷徳堂研究の総合サイト「WEB懷徳堂 http://kaitokudo.jp/」で公開しています。これにより、懷徳堂の歴史と資料は、広く国内外に知られるところとなり、近年、中国・台湾・韓国などからの研究者・民間団体の視察が相次いでいます。適塾に比べて知名度の低かった懷徳堂ですが、一気に世界的な認知を得ることとなったのです。

来年、平成28年は、重建懷徳堂が竣工してからちょうど100年の節目の年にあたります。この記念すべき年に向けて、学内で今、大きな計画が動いています。それは、総合学術博物館（修学館）での「懷徳堂展」の開催です。普段は総合図書館の奥深くに保管されている貴重資料が公開されるのです。この展覧会を通して、懷徳堂の精神を今一度体感してみたいものです。



懷徳堂印章展示

懷徳堂文庫には、200を超える印章とその印譜が残っています。江戸時代の印章がこのように数多くまとって残っているのは、稀有な例でしょう。この電子展示では、その中から15点を選び、公開しています。これまで、印章資料が公開されるという場合、ほとんどはその印面が紹介されるにすぎませんでした。そこでこの電子展示では、印の全体を閲覧することができるように配慮しました。特に、3D画像では、印をマウス操作で回転させ、あらゆる角度から確認することができます。もちろん印面についても、「押印」ボタンをクリックすることによって鮮明な画像をみることができます。印章という小宇宙に刻まれた懷徳堂の精神をご覧ください。



懷徳堂学舎の変遷

懷徳堂文庫に保管されている各時代の学舎の図面を、Web懷徳堂で閲覧することができます。



聖賢扇（せいけんおうぎ）

中井履軒が扇面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたえて面白く評を加えたもの。原本は失われて存しないが、文政3年（1820）に履軒の子袖園が写したものが残されており、その扇面の記載は、『懷徳』17号付録の吉田鋭雄（はやお）「懷徳堂水哉館遺書遺物目録」に翻刻されている。Web上で修復された姿を詳しく見ることができる。（出典：WEB懷徳堂・電子閲覧室）



懷徳堂関連の書籍等

現在、文学研究科や懷徳堂研究センターを中心に発行されている報告書や広報媒体。

【執筆者プロフィール】

湯浅邦弘（ゆあさ・くにひろ）

1957年島根県出雲市生まれ。文学研究科教授。博士（文学）。専門は中国思想史。著書は、『懷徳堂事典』『懷徳堂の歴史を読む』（いずれも大阪大学出版会）、『論語』『諸子百家』（いずれも中公新書）、『入門 老荘思想』『軍国日本と『孫子』』（いずれもちくま新書）、『孫子・三十六計』『菜根譚』（いずれも角川ソフィア文庫）など多数。2013年度「中文デジタルパブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会」において、「優秀学術論文賞」受賞。



Learn
about
KAITOKUDO

懐徳堂の謎を知る。

江戸時代の大坂の学校「懐徳堂」。当時の学びの場はどのようなものだったのでしょうか？
また同時代に物理的にもほど近い場所に誕生していた適塾との接点があったのでしょうか？
大学で過ごす私たちにも身近な「学校」という視点で懐徳堂にまつわる人々の暮らしぶり・学びの文化に迫ります。

※湯浅教授の「懐徳堂の歴史を読む（大阪大学出版会）」に掲載されている懐徳堂問答集から抜粋して掲載しています。

Q1

懐徳堂の受講生数は？

懐徳堂には、残念ながら歴代受講生の名簿は残っていません。しかし、享保十一年（1726年）10月5日初代学主三宅石庵の記念講義を聴講した人の名簿が「浪華学問所懐徳堂開講会徒」に残っており、当日の受講生78名の姓名が確認できます。

Q2

授業は何時間？

懐徳堂の授業は相当に厳しく、特に中井竹山が学主に就任した天明二年（1782年）以降では、休日は毎月の五十日（ごとび、五と十のつく日）だけだったそうです。朱子学を中心とした講義のほかにも、同志会や詩会などの受講生の自主的な学習会があったようです。

Q3

受講生の遅刻・早退は許された？

創建時の懐徳堂の玄関には、今の学則に当たる「壁書」三条が掲げられていたようです。それによると、やむを得ぬ用事があれば、講義の途中でも退出してもよいとされ、また席次についても、武家方は一応上座とするが、講義開始後に出席した場合は、武家方と町人の区別はないとありました。町人の学校、懐徳堂ならではの規定です。



木司令（もくしれい）*
椗製の柝（ひょうしぎ）で、開講を告げる合図として用いられた。表面に記された「司令」とは指揮・監督の意。

Q4

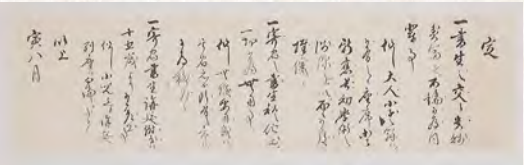
懐徳堂教授の収入は？

講義に対する受講生の謝礼（授業料）は、次のように定められていたようです。

「各々分限（身分や経済力）に応じて行えばよいが、それでは自然と割高になり、貧しい者が出席しづらくなるであろうから、五節句ごとに「銀一匁」または「二匁」とし、講師方への個別の謝礼は無用とすること、また礼をつくし気持ちを表して出席するのが第一であるから、貧しい者はその規定にとらわれず、「紙一折」または「筆一対」でもよいこと、とする。」かなり緩やかな学費納入制度です。

だから、懐徳堂教授たちの生計は苦しかったようです。

第四代学主・中井竹山に、壮年期の貧苦を詠じたとされる「十無の詩」という詩があります。「家に産無し」「衣に副無し」「親に奉無し」「婦に閑無し」「囊に金無し」「廩に米無し」「食に肉無し」「出に輿無し」「樽に酒無し」「門に轍無し」と詠いました。大変さが滲み出ています。



宝暦八年定書（ほうれきはちねんさだめがき）*
懐徳堂に寄宿していた学生を対象として学寮に掲示された定書（さだめがき）。今の学則にあたる。宝暦八年（1758）に制定された。懐徳堂の基本精神を端的に表明するものである。全三条からなり、第一条は、懐徳堂の書生間の交わりについて、貴賤貧富を問わず同輩だとしている。ただし、大人と子供の区別はあり、また、座席については、新旧（新参か古参か）、長幼、学問の進度によって、互いに譲り合うこととしている。第二条は、寄宿生について、私事による外出は認めないが、やむを得ぬ用事やその宿先（勤務先・実家など）から断りがあった場合は例外としている。第三条は、同じく寄宿生について、その謝礼は十五歳から納めることと規定する。

Q5

懐徳堂と適塾に接点があったのか？

懐徳堂があった尼崎町一丁目（現在の大阪市中央区今橋三丁目）と、緒方洪庵の適塾があった過書町（現在の北浜三丁目）とはわずか200メートルほどしか離れていません。ただ、懐徳堂は伝統的な中国の古典を中心とする漢学塾、適塾はオランダ語を通じて最新の西洋近代科学を学ぼうとする蘭学塾であり、学問的にはまったく交流がなかったようです。

ところが、嘉永七年（1854年）九月、ロシアの海軍中将ブチャーチン率いる軍艦ディアナ号が大阪湾の天保山沖に進入した際、この両者が不思議な出会いをしていた可能性があります。

異国船の来航について何の予告も受けていなかった大坂は大混乱に陥り、大坂城代、両町奉行はその対応に追われました。その当時、異国との交渉には第一外国語であるオランダ語が使われました。そこで、このロシア側との交渉に際しても、オランダ語に通じた適塾の塾生が動員されました。

一方、交渉には漢文による筆談も行われ、外交文書の内の一通は必ず漢文によって作成されることになっていました。このディアナ号来航の際にも、懐徳堂の並河寒泉と中井桐園が、奉行所の命により、漢文による筆談に備えて天保山に詰めていたのです。

懐徳堂と適塾は、異国船の来坂という幕末の大事件に際して、天保山での出会いを果たしていた、かもしれません。



上：焼失前の重建懐徳堂***
下：適塾（大阪・中之島）

Q6

懐徳堂は空襲で焼失したのに大量の資料が残ったのは何故？

大正五年（1916年）に再建された懐徳堂は、増改築され、鉄筋コンクリート造り3階建ての書庫・研究室棟が増設されました。昭和二十年（1945年）の大阪大空襲により、木造の講堂と別棟の事務所は焼失しましたが、この書庫・研究室棟は焼け残りました。

ただ、当時の大阪で、焼け残った蔵や鉄筋コンクリート造りの建物も、空襲後に突如炎上したケースがあったといいます。それは、高温となっている蔵や部屋を急に開き、そこに大量の空気が流入することによって起こる、いわゆるバックドラフト現象によって一気に燃え上がったと考えられます。

懐徳堂には、このことに知恵の回る人がいて、十分な冷却時間をおいてから書庫を開いたため、書庫内の資料は災禍を免れました。当時、三万六千点に及ぶとされた懐徳堂の資料は、こうして奇跡的に守られました。



重建懐徳堂の書庫・研究室棟***

Q7

懐徳堂の跡地は今どうなっているの？

江戸時代の旧懐徳堂が閉校となった明治二年（1869年）12月25日、最後の教授並河寒泉は中井一家とともに学舎を退去しました。その敷地・建物は、油掛町の質屋である天満屋善九郎に金三百両で売却されます。

数年間は、元の形のままで空室となっていましたが、その後、さらに譲渡されたことにより、門壁は取り壊されて長屋が建造され、講堂などの大きな部屋はそのままの形で借家に転用。さらにその後、建物すべてが取り壊され、明治の末には煉瓦造りの建物が建造され、旧事の面影は失われました。



大正七年（1918年）、重建懐徳堂の竣工を記念して、その跡地（現在の大阪市中央区今橋三丁目、日本生命本社ビル南側壁面）に懐徳堂旧趾碑は埋め込まれ、現在もその姿をみることができます。

懐徳堂旧趾碑
（大阪・中之島）

役員室だより

総長からの挨拶

6年間で力強い

大阪大学の礎を築く

～一人ひとりの「真価」を阪大の「進化」に～

このたび、大阪大学第18代総長に就任いたしました西尾章治郎です。

大阪大学は、大阪府市民ならびに大阪の政財界の強い要望を受け、1931年に第6番目の帝国大学として創立されました。そして、その源流は江戸時代の懷徳堂と適塾に見出すことができます。この二つの学問所の学風と精神を今も継承し、先進性とたゆまぬ挑戦性を基軸に教育研究に取り組み、さらに2007年に大阪外国語大学との統合という大事業を経て、我が国有数の研究型総合大学として発展を続けております。

ご承知のように国立大学を取り巻く環境は急激に変化しています。たとえば、グローバル化の波は猛烈な勢いで押し寄せてきています。また、人材育成や産学連携において国や社会からの強い期待と要請があります。卓越した教育研究を推進することと並んで、市民や社会の負託に応えていくことは大学の重要な責務の一つです。

このような中において、大阪大学は多様性を受け入れ、変化への柔軟性を発揮し、個性を貴ぶ気風があります。さらに、高度な教育研究力、教職員の和の力、そして伝統の重みと大阪という地の利が織りなす卓越した「基盤」と「力」を有しています。私はこれらの優れた潜在力を活かし、「一人ひとりの真価」を「阪大の進化」に繋げていくことで、確固たる大阪大学の基盤を築いていく決意です。さらに、大阪大学が有する多様な「知」が連携し合う

こと（協奏）、また、卓越した「知」を今後とも教職員・学生が共に創出（共創）し続け社会や世界に還元していくこと、つまり、「知の協奏と共創」を究めていきます。

2003年3月に制定した大阪大学憲章の基本理念には、「対話の促進」「自律性の堅持」が謳われています。すなわち、教職員ならびに学生が立場にとらわれず対話を通じて相手を尊重し、直面する課題に対しては自らの意思においてその解決に信念を持って取り組むことを意味しています。私は、これらの基本理念を特に重視し、キャンパス内で広く実行されていくことを目指します。

「不易流行」という言葉がありますが、国立大学の使命と役割において、変えてはならない所、変わらねばならない所があると思います。よき伝統を堅持しながら、社会や市民の声に柔軟に応えることが大切です。私はこのような姿勢を重んじつつ、これからの6年間、大阪大学の進化、発展のために全力を尽くしていく所存です。

みなさま方のさらなるご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年8月26日

大阪大学総長

西尾 章治郎



理事からの挨拶

理事・副学長
（総合計画、評価、広報担当）

三成 賢次

（みつなり けんじ）



このたび、総合計画・評価・広報担当の理事・副学長に就任しました。総合計画室の室長を務めます。今年度は第3期中期目標・中期計画の原案作成などの重要な課題に対応しなければなりません、とくに近年、改革の具体的な計画（数値）の提示と客観的なデータに基づいた自己評価がますます強く求められています。本学でも、そうした要請に的確に対応できるよう、計画・評価に係る組織整備をさらに進めたいと考えます。

また、広報では、大阪大学のブランディングと認知度の向上が課題です。全学的に展開している種々の広報相互の連携を強化しつつ、戦略をもった広報を展開して行きたいと思います。そして、グローバル化の時代にあつては、ダイバシティを踏まえたキャンパス整備が不可欠です。世界屈指の大学に相応しいキャンパス作りを、私たちは進めて行かなければなりません。

西尾総長のもと、対話を基本とした大学運営を図っていきたく思いますので、皆様のご支援をお願いします。

【略歴】

昭60. 3 大阪大学大学院法学研究科公法学専攻後期課程修得退学
60. 4 大阪大学助手法学部
62. 4 大阪大学助教授法学部
平 9. 7 大阪大学教授法学部
11. 1 博士（法学）（大阪大学）
11. 4 大阪大学教授大学院法学研究科
14. 4 大阪大学評議員（平16. 3まで）
16. 4 大阪大学大学院法学研究科長・法学部長（平20. 3まで）
19. 8 大阪大学総長補佐（平21. 8まで）
20. 5 大阪大学教授大学院法学研究科附属法政実務連携センター
23. 4 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター長（平27. 8まで）
24. 4 大阪大学理事補佐（平27. 8まで）
27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事・副学長
（教育担当）

小林 傳司

（こばやし ただし）



本年8月26日より、教育担当の理事・副学長を務めることになりました。西尾総長のもと、改めて室体制を整備し、大阪大学の教育の充実に尽力したいと思います。歴史を繙けば明らかなように、大学の原点は教育にあり、優れた人材を社会に送り出すことが大学の最大の社会貢献です。かつて、企業研究所など研究に専念する組織が作られましたが、研究面での大学の優位は崩れてはいません。人材育成の機能と研究は相乗効果を示すものであって、背反するものではないというのが、世界の大学の経験から明らかになってきたことです。

教育を大事にすることによって、優れた研究成果を生み出すという好循環を創ることが今重要だと考えています。多様な知の協奏と共創という西尾総長の言葉は、教育にも研究にも当てはまります。再び教育の阪大と呼ばれるようになることを目指したいと思います。みなさまのご協力をお願いいたします。

【略歴】

昭58. 3 東京大学大学院理学系研究科科学史・科学基礎論専攻博士課程修得退学
58. 4 法政大学兼任講師（非常勤）（昭61. 3まで）
59. 4 青山学院大学非常勤講師（昭62. 3まで）
62. 4 福岡教育大学講師教育学部
平 1. 4 福岡教育大学助教授教育学部
2. 4 南山大学文学部助教授
11. 4 南山大学文学部教授
12. 4 南山大学人文学部教授
15. 4 南山大学社会倫理研究所所長（平17. 3まで）
17. 4 大阪大学教授コミュニケーションデザイン・センター
27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

役員室だより

理事・副学長
(研究、リスク管理担当)

八木 康史
(やぎ やすし)



大阪大学が、世界水準の研究型大学として存続し、さらなる発展を目指すためには、すべての分野において基盤研究力の強化が図られ、加えて、全学を通じての「分野横断的」な活動を展開し、世界最高水準の研究拠点を形成する、研究活動の「多面的・多角的な展開」、「知の協奏からの知の共創」をより一層促進することが不可欠です。また、超ビッグデータが扱われる時代において、研究分野を問わず、ビッグデータの高度な統合利活用が、新しい科学的発見による知的価値の創造につながると考えます。大阪大学の研究力強化に向け、ビッグデータの利活用促進環境の構築、～ Open Education, Open Science, Open Innovation ～が活発に行える、文理融合も含む学祭融合的研究の推進に、研究担当として努めたいと思います。また、リスク管理担当者として、健全で安全な研究活動、職場環境が保たれるように、日常的啓発活動、教育・研究環境の維持に全力を尽くしますので、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

【略歴】

- 昭60. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻前期課程修了
- 60. 4 三菱電機(株) 応用機器研究所研究員
- 平 2. 10 大阪大学助手基礎工学部
- 3. 3 工学博士(大阪大学)
- 5. 4 大阪大学講師基礎工学部
- 8. 4 大阪大学助教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学助教授大学院基礎工学研究科
- 15. 4 大阪大学教授産業科学研究所
- 24. 4 大阪大学産業科学研究所長(平27. 8まで)
- 25. 4 大阪大学経営協議会委員(平27. 8まで)
- 27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事・副学長
(財務、情報担当)

小川 哲生
(おがわ てつお)



このたび、財務・情報担当の理事・副学長として働く機会をいただきました。同時に、情報推進本部長(CIO)、附属図書館長、渉外本部長等も兼務いたします。大学の基本である教育研究活動を積極的に進めるために、財務基盤の安定化、合理的予算配分と執行、適切な資金管理と運用など、経営力を強化しなければなりません。また、喫緊の課題である「大学改革」を実行することは、「財政改革」を断行することでもあります。そこで特に、第3期中期目標期間全体を見据えた財政ビジョンの策定、持続可能な大学運営のための学内事業の見直し、意思決定過程の透明化を進め、さらに進んだ財務戦略を実行します。また、自主財源の安定的確保のために、渉外活動にもさらに注力します。成長のためには変化しなければなりません。「不易流行」を心に留めながら、局所的・対症療法的ではなく大局的・総合的視点からの財務運営を、教職協業によって進めます。「現状を鵜呑みにしない」「原理や基本に戻って考える」をモットーに、「激励する・応援する」気持ちの財務担当理事になるつもりです。大先輩から、ゲーテの名言「急がずに、だが休まずに」を贈っていただきました。財務だけでなく、教育研究環境のインフラとして重要な附属図書館や情報システムの充実に向けても、急がず休まず減私奉公の努力をしますので、皆様のご協力・ご理解をよろしくお願いいたします。

【略歴】

- 昭63. 9 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻第1種博士課程退学
- 63. 10 東京大学助手工学部
- 平 2. 4 日本電信電話株式会社基礎研究所研究主任
- 2. 12 工学博士(東京大学)
- 5. 10 大阪市立大学工学部助教授
- 8. 8 東北大学助教授大学院理学研究科
- 12. 5 大阪大学教授大学院理学研究科
- 24. 4 大阪大学理事補佐(平27. 8まで)
- 26. 4 大阪大学教育研究評議会評議員(平27. 8まで)
- 大阪大学大学院理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター長(平27. 8まで)
- 27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事・副学長
(グローバル連携担当)

星野 俊也
(ほしの としや)



このたび、西尾章治郎総長のもとで本学のグローバル化のさらなる推進と整備を担当する理事・副学長を拝命いたしました。新体制下では、従来の国際交流の枠を超えた「グローバル連携室」を立ち上げ、ダイナミックに本学の世界展開を進めてまいります。本学にとって「グローバル化」は新しいことでも特別なことでもなく、「日常」です。だからこそ、グローバル連携を担当する理事としては、本学における教育、研究、産学連携、広報、社学連携、男女共同参画といった各分野でのいっそうの世界展開に向けた環境を「横串」として支え、整備していく役割があると考えています。そのためにも、海外の有力な大学や研究機関はもとより、政府や国際機関、市民社会との連携の拡大、本学の知的なリソースを用いた国際協力の推進、本学方式の教育・研究等のモデルの世界標準化、大阪・関西の立地を最大限に生かし、地域を挙げてのグローバル化の推進などに取り組んでまいります。

【略歴】

- 昭61. 3 東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻修士課程修了
- 63. 4 外務省在アメリカ合衆国日本国大使館専門調査員(平3. 3まで)
- 平 3. 5 財団法人日本国際問題研究所研究員
- 4. 3 東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻博士課程修得退学
- 7. 4 財団法人日本国際問題研究所主任研究員
- 10. 4 大阪大学助教授大学院国際公共政策研究科
- 15. 3 博士(国際公共政策)(大阪大学)
- 15. 7 大阪大学教授大学院国際公共政策研究科
- 18. 8 国際連合日本政府代表部公使参事官
- 20. 8 大阪大学教授大学院国際公共政策研究科
- 23. 4 大阪大学大学院国際公共政策研究科長(平26. 3まで)
- 23. 8 大阪大学総長補佐(平26. 3まで)
- 26. 4 大阪大学副学長(海外拠点、国際問題担当)(平27. 8まで)
- 27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事・副学長
(産学連携、病院運営担当)

吉川 秀樹
(よしかわ ひでき)



このたび、産学連携ならびに病院運営担当の理事・副学長を拝命いたしました。産学連携では、大学内に産業創出拠点を導く「Industry on Campus」構想を継承し、「共同研究講座」や「協働研究所」を増設し、産学連携活動をさらに推進したいと思います。また、国立大学法人出資事業の第1号となる大阪大学ベンチャーキャピタル(OUVC)による投資ファンドの活用により、「官民イノベーション」の実現にも積極的に取り組みたいと考えております。今後も、未来志向の産学連携ネットワークと人材育成事業を強化し、阪大発の革新的なイノベーション創出に努力したいと考えています。一方、医学部附属病院は、本年7月、臨床研究中核病院に認定されました。特定機能病院、地域中核病院として、質の高い信頼される医療を国民に提供するとともに、世界に発信できる革新的な医薬品・医療機器の開発に貢献したいと考えています。全学の皆様方の暖かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

【略歴】

- 昭58. 3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
- 大阪大学医学博士の学位授与
- 58. 4 大阪大学医学部研究生
- 59. 5 大阪大学医学部附属病院医員
- 59. 9 米国カンザス大学研究員
- 60. 9 大阪大学医学部研究生
- 61. 1 大阪大学助手医学部
- 平 5. 7 大阪大学講師医学部
- 7. 4 大阪府立成人病センター病院整形外科部長
- 10. 9 大阪大学講師医学部
- 11. 4 大阪大学講師大学院医学系研究科
- 11. 11 大阪大学教授大学院医学系研究科
- 24. 4 大阪大学医学部附属病院院長(平26. 3まで)
- 大阪大学総長補佐(平25. 8まで)
- 25. 8 大阪大学副学長(病院運営担当)(平成26. 3まで)
- 27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事・副学長
(男女共同参画、社会学連携担当)

工藤 眞由美
(くどう まゆみ)



地域の文化機関としての社会的責任を果たし、男女共同参画を求める社会の要請に応えるべく、ダイバーシティを根幹に据えた世界屈指の研究型総合大学をめざす総長ビジョンに基づいて、男女共同参画・社会学連携室が新たに設置されました。同室担当の理事・副学長を拝命しましたので、ご挨拶申し上げます。

育児や介護と仕事をトータルで考えることにより、どのようなライフステージにあっても、一人ひとりの構成員がその能力と個性を最大限に発揮できる働きがいのある職場環境、魅力ある研究環境作りを加速化させるとともに、21世紀懷徳堂の活動等をはじめとした、大学と市民を双方向的につなぐ知のアウトリーチ活動をマルチ展開していきます。全学の皆様のご支援とご協力のもとに、ボトムアップでじっくりと練りあげられた男女共同参画アクションプランの推進と社会学連携活動とのシナジー効果により、大阪大学の活性化と発展に貢献したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【略歴】

昭54. 3 東京大学大学院人文科学研究科言語学専門課程第1種博士課程単位修得退学

61. 6 横浜国立大学講師教育学部

63. 4 横浜国立大学助教授教育学部

平 9.10 横浜国立大学助教授教育人間科学部

10. 4 大阪大学教授文学部

11. 2 博士(文学)(大阪大学)

11. 4 大阪大学教授大学院文学研究科

19. 8 大阪大学大学教育実践センター長(平24. 3まで)

27. 3 定年退職

27. 4 大阪大学特任教授(常勤) 男女共同参画推進オフィス

27. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事
(人事労務、事務組織担当)

大木 高仁
(おおき たかひと)



このたび、西尾新総長の下、改めて理事を拝命し、人事労務と事務組織を受け持つことになりました。

もとより、「人材」は大学にとって最も重要な資産であり、その観点から積極的に人事に関するシステム・運用の改善を進めてきました。大学が多様な経験、知識、感性を有する人々に支えられるようにすることや、安心してその経験・能力を発揮できるよう環境を整えることは、大学の重要な基盤を築くものであると認識しております。

一方、事務組織面では、特に、教育・国際の学内体制の整備に合わせて、本部事務機構の企画機能と連動した部局事務体制を整備し、関係する改革施策を全学的に実施し得るようにしたいと考えております。

皆様には本学の教育・研究のパフォーマンスをより向上させるべく、人事や事務組織に関する建設的なアイデアを積極的に提案下さるよう、お願い申し上げます。

【略歴】

昭58. 4 文部省入省

平 9. 7 文部省教育助成局教職員課教員研修企画官

11. 4 文部省学術国際局企画官

12. 4 文部省大臣官房企画官

13. 7 文化庁文化財部記念物課長

15. 7 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長

16. 8 警察庁生活安全局少年課長

18. 7 文部科学省初等中等教育局教職員課長

21. 7 文化庁長官官房政策課長

24. 1 文化庁文化部長

25. 4 文部科学省大臣官房審議官

26. 2 国立大学法人大阪大学理事

各室の紹介

総合計画室

審議事項

(1) 将来構想の取りまとめ

(2) 中期目標・中期計画及び年度計画の取りまとめ

(3) 評価

(4) 教育研究組織の整備

(5) 教員の配置計画

(6) 施設マネジメント

(7) その他大学運営に関する重要事項

室 長

三 成 賢 次

理事・副学長

室 員 (10名)

川 端 亮

人間科学研究科教授

高 橋 美恵子

外国語学部教授
言語文化研究科教授

澤 木 昌 典

工学研究科教授

村 田 正 幸

情報科学研究科教授

村 上 伸 也

歯学研究科教授

高 倉 伸 幸

微生物病研究所教授

佐 藤 規 朗

財務部長

秋 山 明 寛

施設部長

松 本 光 弘

総務企画部総務課長

西 久美子

総長室長

教育室

審議事項

(1) 教育に係る将来構想

(2) 教育に係る中期目標・中期計画及び年度計画

(3) 教育に係る組織及び施設の運営

(4) 入学者選抜

(5) 学生の身分並びに学生生活の充実及び向上

(6) その他教育に関する重要事項

室長

小林傳司

理事・副学長

室員(13名)

進藤修一

言語文化研究科教授

松繁寿和

国際公共政策研究科教授

佐藤宏介

基礎工学研究科教授

田島節子

理学研究科教授

大野ゆう子

医学系研究科教授

竹村治雄

サイバーメディアセンター教授

下田正

全学教育推進機構長

深瀬浩一

インターナショナルカレッジ長

川嶋太津夫

グローバルアドミッションズ
オフィス長

岩谷良則

学生生活委員会委員長
(医学系研究科教授)

水野晴央

教育推進部長

徳野正昭

教育推進部次長

田口耕二

教育推進部教育企画課長

研究推進室

審議事項

(1) 研究に係る将来構想

(2) 研究に係る中期目標・中期計画及び年度計画

(3) 研究に係る組織及び施設の運営

(4) 研究の推進

(5) その他研究に関する重要事項

室長

八木康史

理事・副学長

室員(10名)

藤岡穰

文学研究科教授

北岡良雄

基礎工学研究科教授

熊ノ郷淳

医学系研究科教授

近藤滋

生命機能研究科教授

高木淳一

蛋白質研究所教授

西村博明

レーザーエネルギー学研究センター教授

吉田秀保

研究推進部長

古市智

研究推進部研究推進課長

池田雅夫

大型教育研究プロジェクト支援室特任教授(常勤)

菊田隆

大型教育研究プロジェクト支援室学術政策研究員

財務室

審議事項

(1) 財務に係る将来構想

(2) 財務に係る中期目標・中期計画及び年度計画

(3) 財務基盤強化

(4) 予算配分及び決算

(5) 資金及び資産の管理及び運用

(6) その他財務に関する重要事項

室 長

小 川 哲 生

理事・副学長

室 員(7名)

山 根 聡

言語文化研究科教授

大 西 匡 光

経済学研究科教授

尾 崎 雅 則

工学研究科教授

木 村 正

医学系研究科教授

医学部附属病院副病院長

古 澤 孝 弘

産業科学研究所教授

佐 藤 規 朗

財務部長

上 原 貴 之

財務部財務課長

グローバル連携室

審議事項

(1) グローバル連携に係る将来構想

(2) グローバル連携に係る中期目標・中期計画及び年度計画

(3) グローバル連携に係る組織及び施設の運営

(4) 教育研究環境のグローバル化

(5) 海外の教育研究機関との連携

(6) グローバル連携の支援体制

(7) 国際的な情報発信及び情報収集

(8) その他グローバル連携に関する重要事項

室 長

星 野 俊 也

理事・副学長

室 員 (9名)

由 本 陽 子

長 田 真 里

藤 原 融

平 田 收 正

近 藤 勝 義

有 川 友 子

大 藤 生 気

満 尾 俊 一

今 井 京 子

言語文化研究科教授

法学研究科教授

情報科学研究科教授

薬学研究科教授

接合科学研究所教授

国際教育交流センター長

総務企画部長

総務企画部国際交流課長

教育推進部学生交流推進課長

産学連携室

審議事項

(1) 産学官連携に係る将来構想

(2) 産学官連携に係る中期目標・中期計画及び年度計画

(3) 産学官連携に係る組織及び施設の運営

(4) 産学官連携の推進

(5) 知的財産

(6) 出資事業

(7) 利益相反

(8) その他産学官連携に関する重要事項

室 長

吉 川 秀 樹

理事・副学長

室 員 (9名)

北 村 亘

法学研究科教授

豊 田 岐 聡

理学研究科教授

田 中 敏 嗣

工学研究科教授

坂 田 泰 史

医学系研究科教授

永 井 健 治

産業科学研究所教授

正 城 敏 博

産学連携本部教授

北 岡 康 夫

産学連携本部教授

吉 田 秀 保

研究推進部長

松 宮 孝 明

研究推進部産学連携課長

男女共同参画・社会学連携室

審議事項

(1) 男女共同参画・社会学連携に係る将来構想

(2) 男女共同参画・社会学連携に係る中期目標・中期計画及び年度計画

(3) 男女共同参画又は社会学連携に係る組織又は施設の運営

(4) 男女共同参画及び社会学連携の推進

(5) その他男女共同参画・社会学連携に関する重要事項

室長

工藤 眞由美

理事・副学長

室員(10名)

牟田 和 恵

人間科学研究科教授

大谷 順 子

人間科学研究科教授

水島 郁 子

高等司法研究科教授

藤原 康 文

工学研究科教授

西村 理 行

歯学研究科教授

上田 貴 洋

総合学術博物館教授

永田 靖

21世紀懷徳堂学主

藤原 強

広報・社会学連携オフィス
社会学連携課長

亀井 保 男

総務企画部多様な人材活用
推進支援室長

松本 紀 文

広報・社会学連携オフィス
オフィス長補佐

人事労務室

審議事項

(1) 人事労務に係る将来構想

(2) 人事労務に係る中期目標・中期計画及び
年度計画

(3) 給与等に係る施策

(4) ポスト管理

(5) その他人事労務に関する重要事項

室 長

大 木 高 仁 理事

室 員(6名)

茶 園 成 樹 高等司法研究科教授

加 賀 有津子 工学研究科教授

野 口 眞三郎 医学系研究科教授

工 藤 喬 保健センター教授

大 藤 生 気 総務企画部長

亀 井 保 男 総務企画部人事課長

人 事

— 総長 —

平成27年8月26日	西尾章治郎	
------------	-------	--

— 理事・副学長 —

平成27年8月26日	三成賢次	総合計画、評価、広報担当
	小林傳司	教育担当
	八木康史	研究、リスク管理担当
	小川哲生	財務、情報担当
	星野俊也	グローバル連携担当
	吉川秀樹	産学連携、病院運営担当
	工藤眞由美	男女共同参画、社会学連携担当

— 理事 —

平成27年8月26日	大木高仁	人事労務、事務組織担当
------------	------	-------------

— 総長参与 —

平成27年8月31日	田中敏宏(工学研究科長)	
	河原源太(基礎工学研究科長)	
	尾上孝雄(情報科学研究科長)	
	東明彦(外国語学部長)	
	金倉譲(医学部附属病院長)	
	永田靖(総合博物館長)	
	下田正(全学教育推進機構長)	

平成27年8月31日	大阪大学経営協議会学外委員(新規)	鈴木直(関西大学システム理工学部教授)
------------	-------------------	---------------------

— 新施設長 —

平成27年8月26日	工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター長	藤本慎司
平成27年9月11日	理学研究科附属基礎理学プロジェクト研究センター長	豊田岐聡

— 新教授 —

平成27年8月1日	田中宏	【所 属】産学連携本部 【最終学歴】S61.3 東北大学大学院工学研究科情報科学専攻修士課程修了 【前職】総務省
平成27年8月16日	藤岡慎介	【所 属】レーザーエネルギー学研究センター レーザー核融合学研究部門 【最終学歴】H13.3 大阪大学大学院工学研究科電子情報エネルギー工学専攻博士前期課程修了 【前職】本学准教授
平成27年9月1日	千葉恵美子	【所 属】高等司法研究科 法務専攻 【最終学歴】S53.3 北海道大学大学院法学研究科民事法専攻修士課程修了 【前職】名古屋大学
	北田孝典	【所 属】工学研究科 環境・エネルギー工学専攻量子エネルギー工学講座 【最終学歴】H4.3 大阪大学大学院工学研究科原子力工学専攻博士前期課程修了 【前職】本学准教授
平成27年10月1日	宮地充子	【所 属】工学研究科 電気電子情報工学専攻通信システム工学講座 【最終学歴】H2.3 大阪大学大学院理学研究科数学専攻博士前期課程修了 【前職】北陸先端科学技術大学院大学
	橋爪章仁	【所 属】理学研究科 高分子科学専攻高分子構造・物性・機能論講座 【最終学歴】H9.3 大阪大学大学院理学研究科高分子学専攻博士後期課程修了 【前職】本学准教授
	猪阪善隆	【所 属】医学系研究科 医学専攻内科学講座 【最終学歴】H6.3 大阪大学大学院医学研究科内科系専攻博士課程修了 【前職】本学准教授
	蓮生郁代	【所 属】国際公共政策研究科 国際公共政策専攻国際公益システム講座 【最終学歴】H19.3 一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 【前職】本学准教授
	甲斐歳恵	【所 属】生命機能研究科 生命機能専攻時空生物学講座 【最終学歴】H10.3 大阪大学大学院理学研究科生理学専攻博士後期課程修了 【前職】Temasek Lifesciences Laboratory
	KROZEWSKI GEROLD MICHAEL	
	【所 属】未来戦略機構 第九部門 【最終学歴】H8.6 University of Geneva Graduate Institute of International Studies, Ph.D program(International History)修了 【前職】University of the Free State	

訃報

経済学部	北野利信 名誉教授	平成27年7月31日 逝去
医学部	高井信一郎 名誉教授	平成27年8月13日 逝去
微生物病研究所	加藤四郎 名誉教授	平成27年9月18日 逝去
人間科学部	大村英昭 名誉教授	平成27年9月21日 逝去
工学研究科	村岡浩爾 名誉教授	平成27年10月13日 逝去

特別教授講演会 大成功の裏側でキラリ



教職員インタビュー

イベント運営・広報を学び実践した 若手職員プロジェクトチーム

10月5日(月)、世間が2年連続の日本人ノーベル賞受賞の報に沸くまさにその時間、豊中キャンパスの大阪大学会館は、超満員の聴衆であふれていました。その日、そこで行われていたのは、「石黒浩特別教授講演会」。学生を中心に約800名が参加した大成功と言っていいイベントの裏側では、この講演会を研修素材として、イベント運営、イベント広報のノウハウを実践的に学ぶ9名の若手職員の姿がありました。

平成27年度 大阪大学イベント運営企画実践型実務者研修
受講者(五十音順)
太田雅之/加賀涼子/田中綾/永見一彰/西林真司/原田慧/南岡宏樹/山岡史考/山西恵理子

研修参加者が運営方法や学内外への広報戦略を計画し、講演会の運営を通じて、企画力、折衝力、俯瞰力を身に付けることを目的に実施。アウトリーチ活動に詳しいURA等から運営やイベント広報戦略などの講義を受講後、メンバー間での議論や関係者との折衝等を重ね、講演会プロジェクトとして活動し実践的に学んだ。

受講生は3か月間の研修で何を学び、この講演会のために何を工夫し挑戦したのか、伺いました。

今回の研修で、一番得たものは何でしたか？

いかにターゲットを絞って広報活動を行うかの重要性ですね。仕事を何とか前に進めていく自信もついたように思います。

座学で学んだことを実践する中で、最も難しいと感じたのはどんなことでしたか？

時間が限られている中で、チームで共通の意思をもって進める必要があるため、自分の考えをはっきりと言いつつ、メンバー間でも調整し、まとめるところが難しいと感じました。

今回学んだ内容で、他の部署の方にもお薦めしたいイベント運営、イベント広報のコツ等があれば教えてください。

twitterの学生からの反応は想像以上でした。上手く使えば、学生が対象のイベントの広報には効果があると思います。

あと、やはり、誰に何を提供して、どのような反応をしてほしいか、コンセプトを明確にしてから取り組むと企画がブレないと思います。そのコンセプトを共有して、受け身ではなく、能動的に動けるメンバーであるというのも、成功の要因だと思います。



具体的にどのように進めましたか？

コンセプトを決めるところまでが、一番時間がかかりました。全員で何度も納得するまで話し合いました。「学生に来てもらいたい」「そのためには、石黒先生に今回の講演会でしか聞けない話をしてもらわないといけな」といった内容をコンセプトシートにまとめて全員で共有しました。そこからは、運営担当や広報担当などそれぞれ役割分担を決めて、それぞれが自立的に動いていきました。

広報担当では、イベント公式facebookやtwitterを立ち上げたり、ポスター、O+PUS動画もクリエイティブユニットの皆さんに協力していただいて制作しました。今回のポスターのコピーになっている「石黒浩の視界」は、コンセプトをもとにクリエイティブユニットの皆さんとの打ち合わせの中で出てきたキャッチフレーズで、そのフレーズに沿ってクオリティの高いものを作っていました。あとは、情報共有を綿密に行うように各自気を付けて、アイデアを出し合いながら進めていきました。

「この研修がなかったら、これはできなかった！」があれば教えてください。

満員の大学会館での司会や、石黒特別教授と直接交渉すること、西尾総長へのレクに入ることもできなかったと思います。

研修全般についての感想を。どんなことでも結構です！

開演前の来場者の列を見て心底ほっとしました。講演会を一つとっても、裏ではいかに多くの業務があるのか身に染みましたね。今回のメンバーとの繋がりができたのも良かったです！

実際の講演会を研修素材にするという珍しい研修を企画した、未来戦略支援事務室の佐々木室長と担当の岸本室長補佐に伺いました。

この研修を企画した狙いは何ですか？

イベントは、大学の研究や教育の取組をPRするために欠かせないものですが、そのノウハウや広報の考え方等を学ぶ場はほとんどありません。そこでうち(未来戦略機構主催)のイベントを素材に実践の学びの場を作れないかと企画しました。

受講者の様子はどうでしたか？

やる気のある若手の9名の職員が受講してくれて、『失敗してもいい』と伝えていましたが、責任を持って最後までやりきってくれました。悪く言えば放任ですが、口を出したいのをグッと堪えて、こちらは見守ることに徹しました。

この3か月の間で、当初研修を受講しているという、どちらかと言うと受け身だった彼らの姿勢が、石黒教授との打ち合わせを重ねたり、本番が近付いて準備していくにつれ、発言に責任感が増していき、顔つきも変わっていきました。終了後のメンバーの第一声が『ホっとした』だったところにも、彼らが自分事として講演会を成功させようといかに必死だったかが表れていると思います。研修の主催者としても、大変満足のいく結果でした。

また私がPMT(現・総長室プロジェクトマネジメントチーム)在籍時に体験した「答えのない課題に対し、メンバーで議論し考え、それを実践する」という良い経験を、今回の研修受講者には凝縮した形で経験させてあげられたかなとも感じています。彼らが今回の経験を次に繋げてくれることを期待しています。

新旧総長歡送迎会を開催

9月14日(月)、リーガロイヤルホテルで平野俊夫前総長と西尾章治郎新総長の新旧総長歡送迎会が開催され、約150名の名誉教授と教職員が出席しました。



左から熊谷信昭元総長、平野前総長、西尾新総長



中央は宮原秀夫元総長

海外から多くの来訪がありました



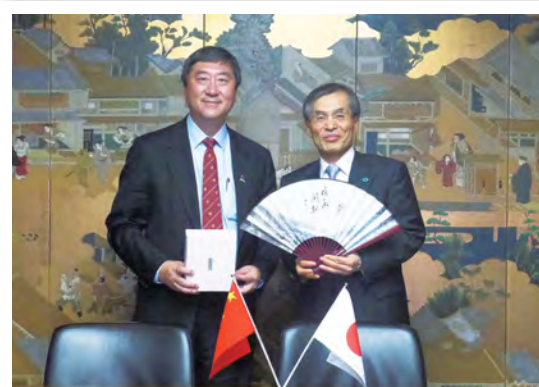
2015.10.6 ブルキナファソ Pooda 大臣



2015.10.6 ロシア・スコルコヴォ科学技術大学 Crawley 学長



2015.10.7 グローニンゲン大学 Sterken 学長



2015.10.7 香港中文大学 Sung 学長

七大戦 2015 大阪大学は2位に！

第54回を迎えた全国七大学総合体育大会、通称「七大戦」。今年は東北大学が主管校での開催で、各競技(正式種目43競技)で熱戦が繰り広げられました。大阪大学は、惜しくも優勝は逃しましたが、見事総合2位の成績を残しました。参加された学生の皆さん、お疲れさまでした。



写真：全国七大学総合体育大会HP

世界中から双生児研究者が一堂に集結

9月28、29日、医学系研究科附属ツインリサーチセンターでは、双生児研究に関する国際会議である「国際双生児レジストリネットワーク(INTR)会議」が開催され、世界16か国から約50名の研究者が参加しました。中には自身も双子という研究者の参加もあり、世界中の双生児研究の成果が集う貴重な機会となりました。



医学部附属病院が医療法上の臨床研究中核病院に認定

医学部附属病院は、平成27年8月7日付けで、医療法上の「臨床研究中核病院」として承認されました。「臨床研究中核病院」は、日本発の革新的な医薬品や医療機器の開発に必要となる質の高い臨床研究や治験を推進するための中心的役割を担う病院として医療法上に位置づけられたもので、厳しい要件を満たした医療機関のみが厚生労働大臣の認可を受けて指定されるものです。今回阪大病院をはじめ、国立がん研究センター中央病院、東北大学病院の3つの医療機関が初めて指定を受けました。

医療法上の「臨床研究中核病院」の承認を受けたことで、今後、他の医療機関の臨床研究の実施をサポートし、また、共同研究を行う場合にあっては中核となって臨床研究を実施することで、他の医療機関における臨床研究の質の向上が図られるなど、次世代のより良質な医療の提供を可能にします。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

また、9月4日に小児医療センター(こどもの森)で航空教室を、9月24日には大学病院について広く市民に知ってもらうことを目的に病院見学会が開催されました。



客室乗務員や航空整備士などスタッフによるクイズ大会



臨床検査部で説明を受ける見学者

国際シンポジウム「南部陽一郎の物理学」を開催します Nambu's Century: International Symposium on Yoichiro Nambu's Physics

本年7月に逝去されました南部陽一郎大阪大学特別栄誉教授(2008年ノーベル物理学賞受賞)を追悼する国際シンポジウムを、大阪大学大学院理学研究科が中心となって開催します。

南部 陽一郎先生は、戦後50年以上にわたり現代の物理学を牽引し、特に素粒子物理学の分野で数々の基本概念、理論を築き上げました。このシンポジウムでは、南部先生とともに物理学を歩んでこられた研究者の方々、これから物理学を目指す若い研究者や学生が参加し、南部先生の業績を振り返りながら、今後の物理学の発展へのヒントを見つけようと試みます。講演者は、南部先生と関わりのある海外・国内からの研究者を予定しています。

【開催日時】 2015年11月16日(月) 9:30 - 20:00

【開催場所】 大阪大学会館(豊中キャンパス)

【使用言語】 英語(同時通訳:なし)

【主催】 南部陽一郎シンポジウム組織委員会 代表:細谷 裕(大阪大学大学院理学研究科教授)

【共催】 大阪大学大学院理学研究科

【ホームページ】 http://www-het.phys.sci.osaka-u.ac.jp/nambus_century(詳細は上記ホームページで公表予定)



2013年9月の大阪大学未来トークで講演する南部先生



国際シンポジウムHP

国際学会等で発表する学生・教職員の方へ 英語プレゼンテーション個人指導の受講生を募集中!

マルチリンガル・エキスパート養成プログラム(以下、MLE)では、国際学会等での研究発表を念頭に、アカデミックな英語発表能力を強化するため、ネイティブ講師から個人指導(チュートリアル形式)でプレゼンテーションスキルを学ぶAcademic English Support Deskのトライアルを、箕面に引き続き吹田・豊中キャンパスでも実施しています。

お申込み方法など詳細は、MLEのWEBサイトをご覧ください。

みなさんの受講をお待ちしています。

【事業名】 英語プレゼンテーション個人指導・トライアル

【申込期間】 2015年9月15日(火)~2016年2月16日(火)

【受講期間】 2015年10月1日(木)~2016年2月19日(金)

①13:00~13:50 ②14:00~14:50

③15:00~15:50 ④16:00~16:50

【場所】 〈月・火・水〉最先端医療イノベーションセンター棟(吹田)

〈木・金〉総合図書館 ラーニング・commons(豊中)

【対象】 全学の学生、教職員

Tel:072-730-5062 / Email:multilingual@lang.osaka-u.ac.jp

Web: <http://www.mle.osaka-u.ac.jp/>



箕面トライアルの受講風景

相続セミナーで不安を解消!

阪大卒の経験豊かな弁護士と税理士を講師にむかえて、「相続セミナー」を開催します。昨年に続き、2回目となる今回は、より実用的な講義となる予定です。セミナーで学んで「争続」を「爽続」に。

ぜひお気軽にご参加ください。詳細は大阪大学ホームページをご覧ください。

【日時】 2015年11月15日(日) 14:00~17:00

【会場】 大阪大学中之島センター 講義室304

【定員】 80名(どなたでも参加できます。大阪大学・大阪外国語大学の卒業生は同伴者1名まで可)

【参加費】 無料

弁護士 上田 憲 氏(さくら法律事務所)

「これだけは知っておきたい遺言・相続の【ツボ】 ートラブル事例を通じてー」

税理士 田中 俊男 氏(田中会計事務所)

「相続税・贈与税のはなし ー平成27年度改正点も踏まえてー」

【お問い合わせ】 大阪大学 卒業生室 セミナー担当

Tel: 06-6879-7196 Fax: 06-6879-4337

Email: alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp



昨年の様子

懐かしく楽しい集いで一年の締めくくり 大阪大学の集い(東京)を開催します

師走の恒例行事「大阪大学の集い」を今年も開催します。関東方面在住の卒業生・教職員OBの皆様、学生・教職員の皆さん、楽しい集いで一年を締めくくりましょう。お連れ様と一緒にのご参加も大歓迎です。

ご家族・ご友人お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください!

詳細は大阪大学ホームページでお知らせします。

【日時】 12月5日(土) 15時受付開始予定

【会場】 学士会館(東京都千代田区)

【講演会】 15:30~

・石黒浩 大阪大学特別教授(基礎工学研究科)

「ロボットと未来社会」

【懇談会】 17:20~

【会費】 3,000円(学生以下は割引あり)

※臨時託児室を設置します

【問い合わせ先】 大阪大学卒業生室 Tel: 06-6879-7196



昨年の様子

【大阪大学シンポジウム】

成熟する社会の生態系 クリエイティブアイランド中之島の共創に向けて

戦後70年の節目を迎える“私たち”の過去・現在そして未来とは？
大学の知、企業の革新性、芸術文化の先駆的感性が相互作用する
生態系と成熟社会の共創について考えます。

日時／12月20日(日) 13:30～(13:00開場)

会場／大阪国際会議場(グランキューブ大阪)12階特別会議場

定員／350名(要予約・先着順)無料

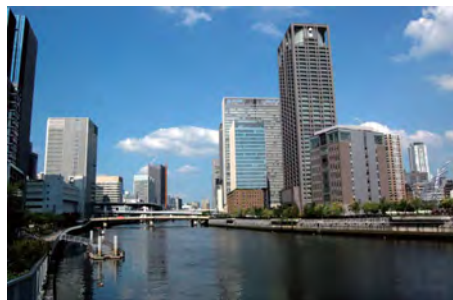
申し込みはこちらから

http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/form_symposium2015

阪大シンポ 2015



※詳細は、本学HP イベント情報をご覧ください



第1部：基調講演

「路地」スティックな 都市文化論

森村泰昌(美術家)

1985年、ゴッホの自画像に扮するセルフポートレート写真を制作。「自画像の作品」をテーマに創作活動。89年ベニスビエンナーレ／アベルト88に選出され、以降国内外で展覧会を開催。受賞多数。



新たに開発される“街”、古い建物や環境を活かす“町”、自然発生的に気配や匂いを醸し出す“まち”、私たちが生きる社会は多様です。大阪に生まれ育ち、独自の思想でモノゴトを捉え、美術という個人的実践によって世界で活躍する森村泰昌氏にとって、オモシロくて魅力的な“まち”とは何なるものなのでしょうか？人々の知性と感性を動かす、森村流都市文化論についてお話しいたします。

第2部：シンポジウム

文化と経済の生態系

～クリエイティブアイランド中之島をめぐる～

登壇者

加藤 好文(京阪電気鉄道 代表取締役社長

CEO兼COO 執行役員社長)

後藤 尚雄(朝日新聞社 常務取締役 大阪本社代表)

山梨 俊夫(国立国際美術館 館長)

脇阪 聡史(朝日放送 代表取締役社長)

西尾 章治郎(大阪大学 総長)

文化と経済は、社会に活力をもたらす両輪として互いに触媒となって進化しながら、人とまちを成熟させていきます。重層的な歴史背景を持ち、近年、様々な都市開発が進む、ビジネス街・文化芸術拠点の中之島を活性化しようとトップが集い、文化・メディア・交通等それぞれの過去と現在を見つめ、そして地域社会の生態系(ネットワーク)と未来を共創する可能性について語り合います。

